

権太夫川水門整備説明資料



平成27年3月17日
国土交通省 出雲河川事務所

操作室底形状

□ 庇の形状について

- 計器類の点検・更新のためのハッチが必要となるため、水平構造となる
- 庇の形状として、「方形」、「台形」、「逆三角形」、「三角形」を比較する
- 構造物全体の大きさに対して庇が占める割合が小さく、形状による景観への影響は小さい
- 全体のバランス、施工性を考慮し「台形庇」とする

案	1案: 方形庇	2案: 台形庇	3案: 逆三角形庇	4案: 三角形庇
イメージ図				
評価	<p>構造物が方形であることより、全体のバランスは良いが単調である。施工性が良く、損傷しにくい形状である。</p> <p>○</p>	<p>構造物が方形であるのに対し、庇を台形とすることで、全体のバランスも良く、柔らかな印象となる。施工性も良く、損傷しにくい形状である。</p> <p>◎</p>	<p>構造物が方形であるのに対し、庇を逆三角形とすると、全体がアンバランスに感じる。1, 2案と比較して若干施工性が悪い。</p> <p>△</p>	<p>構造物が方形であるのに対し、庇を三角形とすると全体がアンバランスに感じる。1, 2案と比較して若干施工性が悪い。</p> <p>△</p>

壁面仕上げ方法(採用タイプ)



操作室:コンクリート打放し, 門柱部:石張り模様

権太夫川ごんだゆうがわの由来

一七八六年頃に描かれた『川下辺絵図』かわしもべえず（島根大学所蔵）によると、松江藩の財政再建のために開発された新田や生活用品などを運んだと思われる堀が無数に確認できます。

現在、堀のほとんどは埋められて、確認できるのは権太夫川ごんだゆうがわのみとなっています。

『津田古志原郷土誌』つだこしばらきょうどしには、大橋川と天神川を結ぶ堀川は「権太夫堀」と書かれています。この名は、かつて松江藩家老として一連の開発や治水事業に携わった三谷権大夫みたにごんだゆうに由来するのではないかと思われま

す。「権太夫川」は、橋南地区では唯一、当時の形を残しています。

平成〇〇年〇月

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所